

第4ターム

みやぎSDGs Farm

第31号
2025年1月11日(土)

発行：河北新報社営業局
特別協力：SDGsとうほく

今回の「みやぎSDGs塾・標準コース」では、宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課の神田恭輔さんが県内の子ども食堂の現状と課題について解説しました。

「居場所」としての子ども食堂

神田さんによりますと、宮城県内で活動している子ども食堂は2024年8月現在198か所。その数は13年前ほどで倍増しました。さらに数だけだけでなく、その位置付けも変化していると神田さん。「以前は貧困対策という側面が強かったが、子どもや地域住民の居場所・交流の場、という役割が生まれてきます。」

神田さんは県が関わる事業として「み



子ども食堂について話す宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課の神田恭輔さん

子ども食堂を地域で支える

2024年11月28日、河北新報社で「みやぎSDGs塾」の第4ターム・前期が始まりました。「標準コース」「実践コース」の各コースで参加者が学びを深めています。



神田さんの話を聞き、グループごとに意見を述べ合う参加者

みやぎ子ども食堂ネットワークを紹介しました。子ども食堂の運営団体や、支援したい個人・企業の交流などを通じて各地域の子ども食堂を応援するしくみで、食材を寄付したい企業と食材を求める子ども食堂とをマッチングする「応援マッチ」などのサービスを実施しています。

神田さんは「SDGs塾」参加者に向けて、「子ども食堂への具体的な支援方法などを紹介するとともに、県内でも地域によって子ども食堂の数や食材の届きやすさに差がある」といった課題にも触れ、「各地域の企業や個人の支援が活動の後押しになる」と訴えました。

第4ターム始動!

「SDGs塾」で新たな交流を

第4ターム・前期の初回の講座となった今回の「みやぎSDGs塾・標準コース」には、「みやぎSDGsアンバサダー」を目指す新たなメンバーが集まりました。

講座では「みやぎSDGs塾のアドバイザーを務めるSDGsとうほくの紅邑晶子さんが「SDGsとわたしたち」と題して講話。SDGsの17項目の目標を環境・社会・経済の3つのグループに分ける考え方を紹介し、その3つのグループをつなぐのが17番目の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」であると説明しました。

紅邑さんは、商店街や学校や地元企業などの連携による



SDGsとうほくの紅邑晶子さん

参加者の声

異業種交流が楽しみ

普段の業務では関わる機会の少ないさまざまな業種の方との交流が楽しみです。今後の自分何ができるのか、半年間の「SDGs塾」での学びを通して皆さんと一緒に考えていきたいです。

日建リース工業 木村浩一さん

意見を交わし、気付きを得る

神田さんの話を聞いた参加者は4〜5人のグループに分かれて意見交換。各グループでは「食事に困っている貧困家庭のためのもの、という先入観があった」といった感想が多く聞かれました。また、「自社が取り組むフードロス削減の活動と結びつけやすい」「何らかの形で協力したい」という意思のある高校生や大学生の力を借りるとよいのでは」と、課題解決に向けた具体的なアプローチを考える機会になったようでした。

以上、現場からお伝えしちゃ



「みやぎSDGs塾・標準コース」第4ターム前期の受講メンバー

る地域づくりの取り組み「仙台荒町子守りプロジェクト」や、企業の協力のもとで実施する仙台高校の探究学習「フェニックスプラン」など、具体的なパートナーシップの事例を紹介。「SDGs塾」を通して交流と連携を深め、自分の身近なところから行動を起こすきっかけにしてほしい」と参加者に語りかけました。

みやぎSDGs塾って?

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」を軸に企業や個人が連携し、豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGsファーム」の基幹プログラム。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成する「標準コース」と、具体的な事例の発展に向けて議論する「実践コース」の2講座が開講され、2021年から河北新報社が運営しています。

参加はこちらから!

みやぎSDGs Farm

賛同企業 募集中!!

公式HP よろしくお願ひします

[申し込み・問い合わせ]
河北新報社営業局
TEL / 022-211-1318
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

実践コース 「みやぎSDGsアンバサダー」や企業・自治体関係者がディスカッション



「みやぎSDGsアンバサダー」のほか各企業や自治体からの参加者が車座になって発言し合う「みやぎSDGs塾・実践コース」

廃棄物について深い学び

「みやぎSDGs塾・実践コース」では、「みやぎSDGsアンバサダー」や、県内企業のSDGs関連の担当者、自治体職員などが集まり、情報交換を行っています。

今回の「実践コース」では、宮城県環境生活部循環型社会推進課の工藤初芽さんが、産業廃棄物を埋め立てる際に課される産業廃棄物税について説明しました。この税は2005年に県が導入したもので、税収を廃棄物関連の事業にあてる目的税です。県はこの税を活用し、廃棄物削減に資する設備を導入する企業への補助や、リサイクル技術の研究開発に対する支援などを実施しています。

参加者からは「課税額を上げたほうが各企業の廃棄物削減の動きにつながるのでは」との意見が出され、活発なディスカッションになりました。

工藤さんに続き、日本旅行東北の櫻井寛也さんは徳島県上勝町を視察した成果を報告しました。同町では家庭などから出るゴミを43種類に分別することで80%以上のゴミ削減を達成したなどの説明に、参加者からは驚きの声が上がっていました。

- 第4ターム参加者 (敬称略) ●
- 【みやぎ生活協同組合】高橋美咲、石田詩歩、乙戸沙織【日本旅行東北】鈴木優希【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森文広【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩竈】加藤貴伸【国分東北】千田李奈【タイハク】水戸伸敏、加藤ひなの【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼真洋【日建リース工業】木村浩一【日立ソリューションズ東日本】大塚千翔【宮城県民共済生活協同組合】松野友紀、鹿野大、加藤雅己、今野凌汰、菊池佑輔、宮崎和奏【ミライトス】鈴木圭介【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚綱学院大学】坂本真斗、佐藤翔太【オブザーバー】紅邑晶子、高橋好郎、高浦康有

● 賛同企業・団体・個人 ●

株式会社 日立ソリューションズ東日本

都道府県民共済グループ 宮城県民共済

DNP 大日本印刷

独立行政法人 環境再生保全機構

日本製紙株式会社

みやぎ生協

山一地所

応援してっ! エントワデザイン

国分東北

日建リース工業株式会社

日本旅行東北

ミライトス株式会社

特別協力 SDGsとうほく

協力 宮城県 JICA東北 荒町商店街振興組合 YES工房 オフィス塩竈 いなか道の駅やしまや 多賀城工場地帯連絡協議会 WACO CREATE 尚綱学院大学SDGsセンター